

「知」の集積と活用が目指すオープンイノベーションの形について

「知」の集積と活用が 産学官連携協議会において、研究開発プラットフォームでは、

- ① ある会員が抱える特定の問題に対して、他の会員が有する特定の解決手段・アイデアを基にお互いに協業する活動（コンビニ型）
- ② 会員同士が明確な特定の問題意識を共有し、お互いが有する様々な解決手段・アイデアを基に協業する活動（化粧品売場型）
- ③ 現時点では、問題や解決手段は必ずしも明確ではないものの、会員との交流を通じて新たな価値創出を構想する。その上で、その実現手段として革新的な技術の開発や、他からの既存技術の導入により、ビジネスを立案する。そのようなイノベーションを創出する活動（人生相談所型）

の3つの活動が行われることが期待されています。

このうち、「人生相談所型」は、真にイノベーションを創出するための活動として最も重要です。

これは、作物の品種や栽培技術など、単体技術による単体製品の開発だけでは、技術による製品の改善・改良（インプルーブメント）はなされるにしても、画期的な価値を創造・普及・定着させること、すなわちイノベーションを行うことが難しいためです。

イノベーションのためには、異種の技術・製品を組み合わせることでシステム化し、新たな価値を創出していくことが必要です。

例：「植物工場」においてイノベーションを起こす場合、「筐体^{きょうたい}」、「ソフトウェアによる制御」、「バイオ（新品種、栽培法）」等総合的に多様な技術群を組み合わせることでシステムとして全体の価値を創発させることが必要になります。（平成29年2月21日 評価委員会議事要旨より一部編集して掲載）

このためには、「知」の集積と活用が場において、研究者や現場の生産者、卸・流通などの関係者に加え、従来は農林水産・食品産業と関係のなかった分野の方々等の多様な会員が交流を行い、従来にはない異分野の技術・製品を組み合わせ、新たな商品や事業（ビジネスモデル）を創出する取組、

すなわち「人生相談所型」のオープンイノベーションの取組が重要となります。

「人生相談所型」の活動は、研究開発プラットフォームの形成段階から研究内容が明らかになっているのではなく、何をしたらよいか分からない会員や悩みを抱えた会員等が集まることが第一段階。その上で、みんなで議論して、どのような価値を創出するかを発案することが第二段階。その価値を可能ならしめる技術をどのように実現するか検討を行うことが第三段階。その上で、その実現に向けて研究コンソーシアムで研究開発を行い、得られた成果は研究開発プラットフォームにフィードバックしながら、商品化・事業化につながるイノベーションを創出する取組です。

「知」の集積と活用の場の構築に向けた取組がスタートし、会員数及び研究開発プラットフォームは順調に増加しています。いくつかのプラットフォームでは、異分野の組織を含む研究コンソーシアムを形成し、新たな商品化・事業化に向けた研究が行われています。

他方、研究開発プラットフォームの中には、「このメンバーでこの研究を行う」ことを前提として、「知」の集積と活用の場による研究開発モデル事業へ応募するためにグループが形成されているようなものも見受けられます。

会員の皆様におかれては、「知」の集積と活用の場の趣旨や目指すオープンイノベーションの形について、改めてご理解いただき、研究開発プラットフォームでの「人生相談所型」の活動によるイノベーション創出が一層推進されるよう、今後とも活発な活動を行っていただきますようお願いいたします。協議会としても最大限のサポートを行ってまいります。